水と安全

水はアプローチ次第でやさしくも怖くもなる。

毎年毎年、水の事故は減ることがありません。
特に夏は、悲惨な事故をニュースで見ることが多くなる季節です。
救助の際に、助けた人までもが被害に遭うことも多く、
最悪の場合亡くなることも少なくありません。
水遊びは楽しい遊びですが、自分で身を守り、
安全に気をつけなければ、楽しい時間ではなくなるかもしれません。
知ることで守れるならば、知っておきましょう　水との上手な付き合い方を。

水の恐怖

「不慮の事故で命を落とす」「助けることができたかも知れないのに助けることができなかった…」周りの人の悲しみは、到底図り知れるものではありません。水は、人々を潤すことで幸せをもたらしますが、悲劇をもたらすこともあることを知ってください。

人間は、生きていくために必要なものは多くありますが、その中でも酸素がなければ5分も持たずに命を落としてしまいます。水の中では呼吸をすることができません。十分に水の事故には気をつけましょう。

子どもは、予測できない「遊びの名人」

子どもは、冒険心があり、いろいろな変化を好みます。しかし、それには危険が伴うことを理解しておいてください。今まで起きなかったような事故も、子どもたちの好奇心によって起きるかもしれません。親が、水との接し方を〝お風呂からプール、そして川や海へ〟と段階的に教えることも重要であると思います。

自分と大切な人を守るために

まず、危険なところに近寄らないのが第一です。安全と思っていても、水かさが増えるなど、状況が変わって危険な場所になることがありますので気をつけましょう。次に溺れた人を助ける場合ですが、自分の安全を確保して助けることが理想的です。自分が溺れないように棒やロープなどを用意しておくことも一つの手です。特に泳いで助けることはとても危険です。これは体験すると分かるのですが、服を着たまま泳ぐということはとても難しいことなのです。溺れている人を救助するときは、7～8歳の子どもでも暴れられると動けなくなってしまいます。自分の力を過信せず、自分の身を守りながら救助しましょう。

また、ペットボトルやクーラーボックスを用意しておくと溺れた時の浮き輪代わりになります。レジ袋なども使えるでしょうね。とにかく、流されたとしても呼吸ができるようにしてやること。それがその場でできる最善の方法なのです。

菊池広域連合消防本部南消防署
第一消防課　救急係長
救急救命士　迫（はざま）　光一（こういち）さん

水と水

すなわち地域通貨「水水」

平成20年4月からスタートした「元気大津づくり活動事業」。地域通貨「水水」はどのように人から人に流れていくのでしょうか。現在の実施状況などをお知らせします。

町では、随時「元気大津づくり活動」への参加登録を受け付けています。大津町の「水」を活用して、大津町をさらに元気にするためには、皆さんの力が必要です。活動への参加をお待ちしています。

問い合わせ
役場企画課　地域づくり推進係
☎(293)3118

『元気大津づくり活動』の流れ

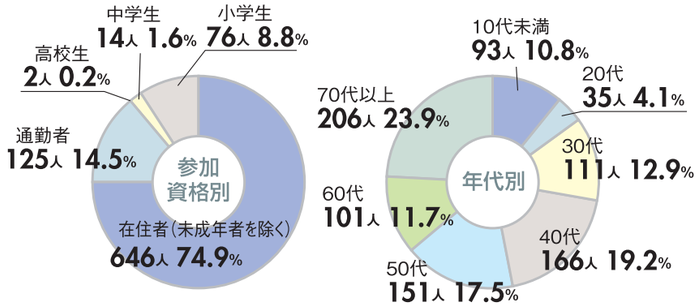
参加登録する

活動を実践する
A：町の美観を保つ活動
B：地域安全活動
C：支え愛（あい）活動
D：地域環境活動

地域通貨「水水」の交付

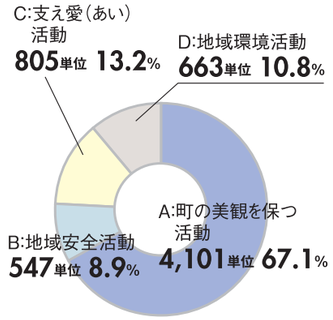
平成20年度 参加登録状況

（参加登録者数863人）



参加資格別にみると、町内への通勤者の登録も約1割あります。これは、この事業への参加登録を推進している企業などの協力によるものです。また小中学生の登録も約1割あります。

元気大津づくり活動状況



「水水」を交付した人の活動回数です。1単位は、1週間あたり15分以上の活動です。

地域通貨「水水」交付状況

（平成20年度の活動に対する交付）

交付人数　216人
（内訳）「水水」交付 73人
団体への寄付申出 143人

交付枚数　1,443枚（144,300円）
（内訳）「水水」交付 339枚
団体への寄付申出 1,104枚

簡単に「水水」を登録団体に寄付することができる「寄付申出書」を使った申請が、約7割となっています。

地域通貨「水水」活用状況

町の施設の使用料や手数料などへの支払い
（平成21年5・6月分）
36件　91枚
（ゴミ袋82枚　住民票など9枚）

登録された住民団体からの換金申請
8団体　1,100枚（110,000円）

登録団体への寄付以外の活用としては、約9割が町指定ゴミ袋との交換でした。

登録団体の状況

登録住民団体数	15団体
自治会	1団体
（内訳）老人会	5団体
子ども会	1団体
その他	2団体
NPO法人	1団体
ボランティア団体	5団体

全体の登録団体数がまだ15団体しかありません。寄付をしたい団体が登録されていないという参加登録者の意見も多かったです。受付はいつでも行っていますので、ぜひ団体登録をしてください。